

ENGINE

「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業」実施レポート

福島の高校生 チャレンジ！



平成27年3月

福島県



福島の高校生が取り組んだチャレンジについて

東日本大震災からの復興・再生は、福島県民が取り組む大きな課題であり、今後その主役となるのは次代を担う若者です。

若者が本県の復興・再生に主体的かつ積極的に関わり、その姿を広く県内に伝える事により、若者の自立心や社会参画の意識を高めるとともに、若者による本県復興の加速化を図ることを目的として、県では平成 25 年度～ 26 年度に「若者ふるさと再生支援事業」を実施しました。

震災から 3 年が過ぎた平成 26 年夏から平成 27 年春にかけて、この事業を活用して、福島県内 7 か所で 14 校の高校生が「自分・家族・地域のために、いま自分たちがやりたいこと」をテーマに地域の復興・再生に向けたアイデアを話し合い、地域の人達と一緒にそれを実践する活動を行いました。

本レポートは、高校生たちの取組の概要を写真とともに取りまとめた記録です。

本事業の実施にあたって、高校生の取組に御協力をいただいた多くの皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本書が青少年の社会参画促進の一助となれば幸いです。

平成 27 年 3 月

福島県生活環境部 青少年・男女共生課長

「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業」について

I 事業目的

若者が本県の復興・再生に主体的かつ積極的に関わり、その姿を広く県内に伝える事により、若者自身の自立性や社会参画の意識を高めるとともに、若者による本県復興の加速化を図る。

II 実施主体

福島県（県内 7 地域で実施し、事業の運営等は各地域で活動する団体に委託して行う。）

III 事業内容

1 高校生ワークショップ（2 回～ 4 回）

(1) テーマ 「自分・家族・地域のために、いま自分たちがやりたいこと」

(2) 参加者 ・ファシリテーター（受託団体が選定）
・高校生 10 名程度（2 校× 5 名程度）

(3) 内 容 ・自己紹介等のアイスブレイク
・カード方式による、実践活動アイデアの企画・提案
・話し合いによる意見集約→実践活動内容の決定
・実践活動・準備の役割分担決定
・実践活動までのスケジュール作成

2 取組の実践活動（例）

- ・地域の絆を強めるための取組（ふるさと交流活動、伝統行事の復活や伝統文化の継承など）
 - ・風評払拭のための取組（復興イベントの開催、県内外への情報発信、県産品 PR など）
 - ・若者の力の結集・ネットワークづくり（他の高校との合同ボランティアなど）
- ※ 行政、団体、企業、大学、研究機関、教育機関、福祉機関等との協働を含む。

IV 予算財源

- ・福島県東日本大震災子ども支援基金繰入金
- ・原子力災害等復興基金繰入金

県北地域

参加高校 ● 福島商業高等学校（6名）・福島明成高等学校（5名）
事務局 ● 社団法人 aichikara

ワークショップ

● 第1回（平成26年7月9日）

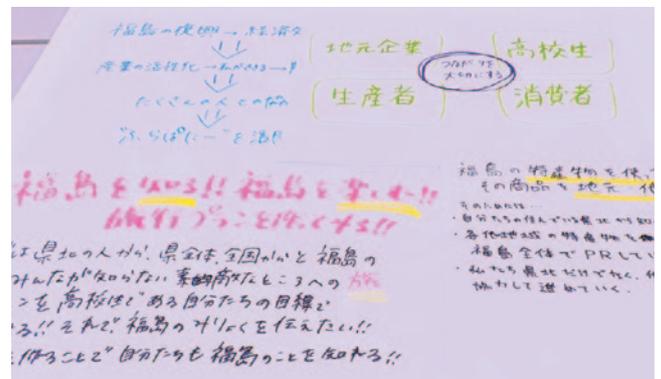
内容

“震災からの復興”をテーマに、高校生が「いま自分たちにできること」「いま自分たちがやりたいこと」について意見を出し合い、どんな活動をするかを話し合いました。



結果

高校生から「福島から遠くなるほど、福島の情報が届いていない。」「福島の良さを自分たちがもっと伝えたい。」との意見が出され、そのための活動を行うことになりました。



● 第2回（平成26年9月4日）～ 第3回（平成26年10月17日）

内容

第1回のワークショップで決まった県外での風評払拭活動について、具体的にいつどこで何をやるかを話し合いました。

結果

全国から人が集まる東京都と、福島の情報が届きにくい関西地区で、福島県産品の風評被害を払拭するため、福島の農家や食品企業の安全・安心に向けた取組や想いを、高校生の元気とともに消費者に伝えることにしました。

具体的には、福島の農産物と漬物を使った定食とりんごを販売PRすることとなりました。

実践活動

1 農家と食品企業の方からの聴き取り（平成26年12月5日）

伊達市のりんご農家、本宮町の米農家、大玉村のきのこ農家、福島市の漬物製造会社を高校生が訪問し、東日本大震災と原発事故の影響や、安全・安心に向けた取組、生産物にける想いなどについて、直接話を伺いました。



2 県外での風評払拭活動に使用する PR パネルの作成（平成26年12月6日）

農家や食品企業の方から聴き取りをした内容を基に、県外での風評払拭活動で使用する PR パネルを作成しました。

3 県外における風評払拭 PR 活動（平成26年12月22日、平成27年1月17日）

平成26年12月22日には東京都の「日本橋ぶくしま館 MIDETTE」で、平成27年1月17日には、兵庫県神戸市で開催された「ひょうご安全の日のつどい」で、県産の米、漬物、きのこを使った定食やりんごの PR 販売を行い、県外の消費者に直接福島の生産者の取組と想いを伝えることができました。



ワークショップ

● 第1回（平成26年5月26日）

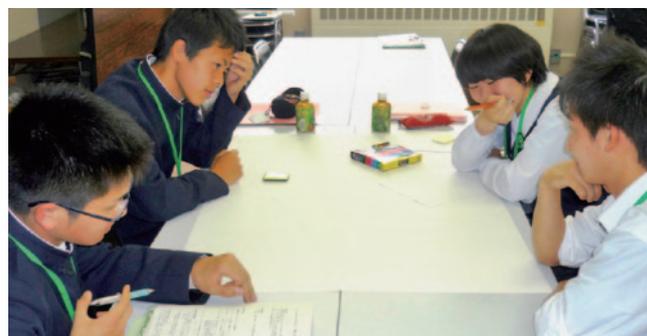
内容

自分・家族・地域のために、いま自分たちがやりたいこと”をテーマに、高校生がアイデアを出し合いました。



結果

高校生からは、自転車を使ったチャレンジや県産農林水産物の風評払拭PRなど様々なアイデアが出され、次回のワークショップで実際にどんな活動をするか絞り込むこととしました。



● 第2回（平成26年6月20日）～ 第3回（平成26年7月29日）

内容

第1回のワークショップで出たアイデアの中から、高校生がみんなでやりたいことを一つに絞り、具体的にいつ・どこで・どんな活動を行うか、役割分担などを話し合いました。



結果

テレビ局のチャリティ・イベントで、福島農産物の風評払拭のためのPR活動と、消費者から農家へのメッセージをもらって届けることが決まりました。



実践活動

1 果樹農家の収穫作業・加工作業の手伝い、PR 資材の作成 (平成26年8月12日)



須賀川市の果樹農家のところへ行き、桃の収穫作業や加工作業の手伝いをしながら、生産物への想いについて、直接話を伺いました。

また、PR 活動に使用する看板やポップを作成しました。



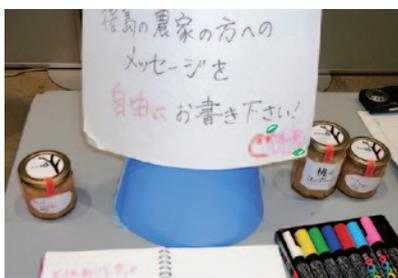
2 福島の農林水産物の放射性物質検査状況の見学 (平成26年8月20日)

福島県農業総合センターへ行って、福島の農林水産物の放射性物質モニタリング検査の状況を見学し、研究員の方から詳しく話を聴きました。



3 福島の農産物の風評払拭 PR 活動 (平成26年8月30日～31日)

日本テレビ系列テレビ局のチャリティ・イベント「24 時間テレビ～愛は地球を救う」の郡山会場 (ビッグパレットふくしま) で、福島の桃やりんごの加工品 (コンポート、ジャム) を PR 販売し、来場者から応援メッセージをもらって農家へ伝えました。(売上金は番組のチャリティ募金に寄付しました)



ワークショップ

● 第1回（平成26年7月14日） 第2回（平成26年7月30日） 第3回（平成26年6月19日）

内容

「自分・家族・地域のために、いま自分たちがやりたいこと」をテーマに、高校生が意見を出し合い、どんな活動をするかを話し合いました。



結果

高校生からは、「福島情報が届きにくい県外で、風評払拭のために活動したい」との意見が出され、そのための活動を行うことになりました。



● 第4回（平成26年6月19日）

内容

第3回までのワークショップで決まった県外での風評払拭活動について、いつどこで何をやるかを話し合いました。



結果

全国から人が集まる東京都で開催される「ふくしま大交流フェア」に出展し、福島県内の高校が県内の農家や企業とコラボレーションして開発した商品を販売し、福島の元気を首都圏の消費者に伝えることにしました。



実践活動

1 農家や商品開発高校からの聴き取りとPR 資材の作成 (平成27年1月)

棚倉町のブルーベリー生産者を高校生が訪問し、東日本大震災と原発事故の影響や、安全・安心に向けた取組、生産物にける想いなどについて、直接話を伺いました。

また、農家や企業と連携して商品を開発した高校の生徒に聴き取りを行い、それらを基に、東京での風評払拭活動で使用するPR 資材を作成しました。

ベリーで Good Blueberry

■ 生産者紹介
棚倉町ブルーベリー産地クラブ会長
氏名 久保 正 さん
経田 良昇 さん (東白川郡棚倉町)

■ 消費者に伝えたいこと
全ての年で、年2回のモニタリング検査を実施し、農産物は安全で安心なものを提供してまいります。

■ 東日本大震災後の影響
復興活動の発生
平成23年3月以降、冷凍ブルーベリー製品の中止
※全ブルーベリー5トン5000キロを販売見込
修明高校の高校生が経田さんからお話を伺いました。

■ 東日本大震災後の対策・取り組み
①ブルーベリーの製造作業を減く作り、出来る限り水についている放射性物質を取り除いています。
②食品(農作物)を放射線計、新しい測定法に取り組みしています。

■ 生産現場での対策
出荷前での対策
福島県では、生産される全てのブルーベリーのモニタリング検査を行い、安全を確認しています!

■ 修明高校では、ブルーベリーのマスコット「あいちん」です!
修明高校では、ブルーベリーを使ったジャムを販売しています!

福島県立修明高等学校・福島県立光南高等学校

ぴかぴかのお米 精米「天のつぶ」

▽ 生産者紹介
福島県立 岩崎農業 施設

消費者に伝えたいこと
学校で作っているお米です!

岩農産 特製 お味噌

このお味噌は学校産のお味噌を使っており、無添加で国産大豆の味噌になっています

実習時の服装指導、出入りの規制
消毒の徹底などきちんとした
場所で作っています(うん)

▽ 東日本大震災から
約8年ぶりに作った味噌です。
学校のお米から味噌を作り生徒たちが一生懸命作りました!

福島県立光南高等学校・福島県立修明高等学校

どれみふあそラスク♪

■ 生産者紹介
郡山商業高等学校と手作りパンの店ウオルトのコラボ商品

ーパン屋さんだけど、子供たちの元気な姿が見れるように復興に少しでも協力したいと思っています!

消費者に伝えたいこと

■ 東日本大震災の影響
パン屋さんウオルトは、震災を機に、リニューアルしたそうです。そして、少しでも復興の手助けになればと、郡山商業高校のラスクづくりに協力したそうです。

■ 工夫している点
天然酵母で北海道と九州のブレンド小麦を使っています。
ラスクだからと手を抜かず、メロンとイチゴのフルーツ的な香りが出るように、風味を工夫しました。
また、色を付けるのに着色料を利用しますが、自然由来のものを使用しているそうです。

福島県立光南高等学校、福島県立修明高等学校

2 県外における風評払拭 PR 活動 (平成27年1月12日)

東京国際フォーラム (有楽町) で開催された「ふくしま大交流フェア」に『TEAM ☆ふくっ子』としてブース出展し、福島県内の高校が県内の農家や企業と共同開発した商品をPR 販売して、福島県の元気を発信しました。

元気な「TEAM ☆ふくっ子」ブースにはたくさんの方が立ち寄り、高校生たちの説明に熱心に耳を傾けてくれました。高校生は「今の福島を伝えること」の大切さを実感していました。(売上金は日本赤十字社に寄付しました)



ワークショップ

● 第1回（平成26年6月16日）～ 第2回（平成26年7月16日）

内容

高校生が「地域のために、いま自分たちがやりたいこと」についてアイデアを出し合い、意見を交換しました。



結果

高校生からは「自分たちの地域の特産品をPRして、地域をもっと盛り上げたい。」との意見が出され、そのための活動を行うことになりました。



● 実践活動打合せ（平成26年8月12日）

内容

2回のワークショップで決まった“地域をPRする活動”について、具体的にいつどこで何をやるかを話し合いました。

結果

喜多方ラーメンやアスパラガスなどの特産野菜などをもっとPRし、地域を盛り上げるため、喜多方市内で行われる街なかイベントにブース出店し、市民や観光客にオリジナルの喜多方ラーメンや特産野菜を使った食品を販売し、味わってもらおうこととしました。

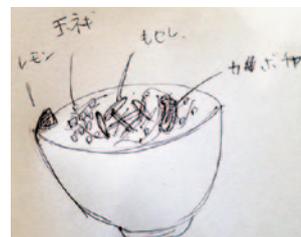
実践活動

1 地域の商店、飲食店などとのつながり

喜多方市内のラーメン店に協力してもらい、高校生が特産野菜を使ったオリジナルの喜多方ラーメン商品を開発しました。

そして、高校生のアイデアである“流しラーメン”の実験にも協力いただきました。

また、街なかイベントに出店するカフェで提供するコーヒーの淹れ方を、地元の喫茶店店主に指導してもらいました。



2 街なかイベントに出店し、地域の良さをPR (平成26年11月3日)

喜多方市の街なかイベント「喜多方歩行者天国ふれあい通り」にカフェを出店し、オリジナルの喜多方ラーメンや、授産施設と共同開発したアスパラガスのパン、コーヒーなどを販売し、地域をPRしました。

(売上金は広島土砂災害で被災された方への支援金として寄付しました。)



ワークショップ

● 第1回（平成26年7月8日）

内容

高校生が「南会津地域の課題」と「地域のためにやりたいこと」について、意見を出し合いました。



結果

高校生からは、地域の課題として「交通の便が悪い」「電波がない」「商業施設や遊ぶところがない」「他地域との交流が少ない」「空き家が多い」「若い人が出て行ってしまう」「郷土料理を食べる・作る機会が少ない」などの意見が出されました。

また、地域のためにやりたいこととして「もっと地元を知る」「お年寄りに学ぶ」「除雪作業を手伝う」「特産品をアピールする」「地域の情報を発信する」「帰ってきた若者に奨励金を出すよう自治体に働きかける」「若者がイベントを企画・開催する」などの意見が出されました。



● 第2回（平成26年8月7日）～ 実践活動打合せ（平成26年10月6日）

内容

高校生が「地域のために、いま自分たちがやりたいこと」についてアイデアを出し合い、いつ・どこで・何をやるか、役割分担などを話し合いました。



結果

高校生は、地域の特産品をアピールして地域をもっと盛り上げるため、地域の食材を使った「郷土料理コンテスト」を開催することに決め、そのための役割分担や作業スケジュールを考えました。



実践活動

1 「南会津郷土料理コンテスト」の作品募集と、只見町への協力依頼

平成26年12月12日から、高校生が考えた「私たちの南会津郷土料理コンテスト」の作品募集を開始しました。コンテストは会津食彩工房の山際博美氏と会津大学短期大学部の水尾和雅氏の監修で行われ、応募作品の書類選考を高校生が行い、最終選考は只見町のイベント「只見ふるさとの雪まつり」会場で、来場者に試食審査をしてもらうことになりました。

高校生はコンテストの実施について、只見町の目黒町長を訪問して説明し、協力を依頼しました。

2 「私たちの南会津郷土料理コンテスト」最終選考会・表彰式の開催（平成27年2月15日）

「只見ふるさとの雪まつり」会場で、コンテストの最終選考が高校生の運営で行われました。高校生たちは、最終選考に残った3作品を、只見高校の調理室を借りてカットし、雪まつり来場者に試食審査してもらい最優秀作品を決定しました。

その後、高校生の司会・進行で表彰式が行われ、今後入賞作品の商品化に向けて働きかけていくことにしました。



相双地域

参加高校 ● 相馬高等学校 (6名)・相馬東高等学校 (5名)
事務局 ● 特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ

ワークショップ

● 第1回 (平成26年8月1日) ~ 第2回 (平成26年8月7日)

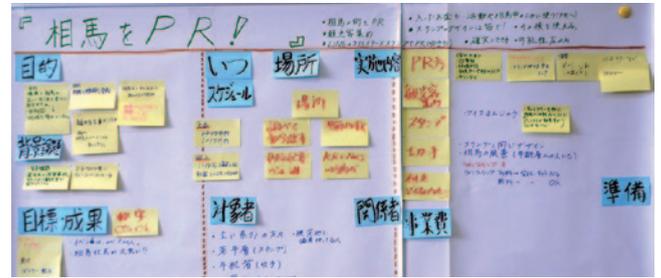
内容

高校生が「地域のために、いま自分たちがやりたいこと」についてアイデアを出し合い、意見を交換しました。



結果

高校生からは、「相馬の良さをたくさんの人に知ってもらい、訪れてもらいたい」「海に関するイベントを開催したい」「街中に若者の居場所スペースをつくりたい」などのアイデアが出され、最終的に、相馬に来て見て味わってもらうため「想馬スタンプラリー」を行うことと、スマートフォンの通信アプリ LINE のご当地スタンプを作成することに決めました。



● 実践活動打合せ (平成26年8月30日、平成26年9月15日、平成26年10月4日)

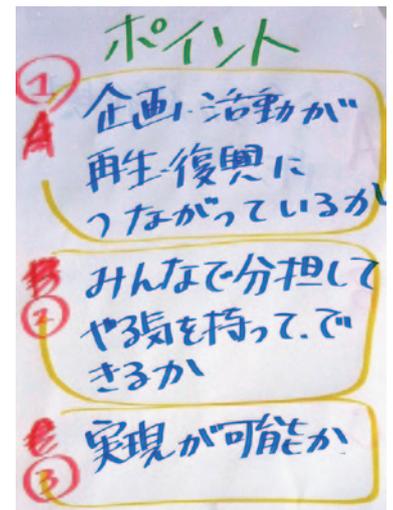
内容

2回のワークショップで決まった“地域をPRする活動”について、具体的にいつどこでどのように実施するかを話し合いました。



結果

「想馬スタンプラリー」のスタンプ設置スポットやコース、賞品、及びLINEスタンプの作成について、役割分担やスケジュールを話し合いました。



実践活動

1 相馬市や相馬商工会議所、民間団体などを訪問し相談（平成26年10月20日、11月3日、11月15日）

高校生が相馬市商工観光課、相馬市教育委員会、相馬商工会議所、和田観光苺組合、松川浦観光振興グループ加盟店などを訪問し、「想馬スタンプラリー」の実施について相談しました。開催方法やスタンプ設置スポットの設定、設置協力店・施設等への依頼の仕方などについて、アドバイスをもらいました。



2 「想馬スタンプラリー」スタンプ設置店・施設への協力依頼（開催 PR 活動）（平成27年1月17日）

スタンプラリー（H27.1.18～2.15）の実施について、スタンプ設置スポットの JR 相馬駅や観光いちご園、飲食店などの施設を高校生が訪問し、スタンプと応募はがき付きのパンフレットをお渡しして協力を依頼しました。



3 「想馬スタンプラリー」の抽選会を行いました。（平成27年2月21日）

当選された方には、観光いちご園の招待券や相馬海の幸セット、高校生がデザインした切手や缶バッジなどの賞品を発送しました。



ワークショップ

● 第1回（平成26年6月4日）～ 第2回（平成26年7月28日）

内容

高校生が「地域のために、いま自分たちがやりたいこと」についてアイデアを出し合い、意見を交換しました。



結果

高校生からは、「いわき市で生活している市民、避難されている方、復興事業に携わる方など、みんなが互いに協力しながら気持ちよく暮らせるまちにしたい」「自分たちができるパフォーマンスで地域を元気にしたい」などの意見が出され、そのための活動を行うことになりました。



● 実践活動打合せ（平成26年8月12日）

内容

2回のワークショップで話し合った「地域を元気にして、みんなが互いに協力し合って暮らせるまち」にするための活動について、具体的にいつどこで何をやるかを話し合いました。

結果

実践活動の内容として、いわき駅前で開催される「いわき街なかコンサート」に高校生も参加し、小名浜高校がフラダンスで、いわき海星高校がじゃんがら念仏踊りでパフォーマンスを披露し、ステージを盛り上げること、いわき駅前を清掃し美化啓発を行うこと、が決まりました。

実践活動

1 美化啓発資材(コットンの種)の採取・美化啓発チラシの作成（平成26年10月4日）

いわき市内の東北コットンプロジェクト（紡績・衣服関連の企業、団体が共同で綿栽培による震災復興を目指すプロジェクト）の綿栽培地に行き、高校生が美化啓発用の配布グッズにするためコットンの種を採取しました。

2 いわき市内の高校への参加呼びかけ

小名浜高校、いわき海星高校の生徒が、市内の他校にもプロジェクトへの参加を呼びかけ、いわき総合高校と原発災害からの避難でいわき明成大学にサテライト校を置いている双葉高校の生徒がボランティアとして参加しました。





3 いわき市への実施協力依頼（平成26年10月9日）

高校生がいわき市役所を訪問し、いわき市の清水敏男市長に高校生の実践活動について説明し、実施についていわき市への協力を依頼しました。

また、市長から高校生へ、美化活動のための清掃用具とごみ袋が貸与されました。



4 市民イベントへの参加 及び いわき駅前の美化啓発（平成26年10月18日）

いわき駅前広場で開催された「いわき街なかコンサート」に高校生が参加し、小名浜高校がフラダンスを、いわき海星高校がじゃんがら念仏踊りのパフォーマンスを披露し、ステージを盛り上げました。

そして、高校生が駅前を清掃し、いわき市民に自分たちで作った美化啓発のチラシとコットンと百日草（花言葉：絆・復興）の種を配布しました。



ふくしま若者NEWS

平成26年3月
福島県生活環境部青少年・男女共生課

福島の復興・再生に向けて、高校生・若者が取り組みました！

東日本大震災からの復興・再生は福島県民が取り組む大きな課題であり、今後その主役となるのは次世代を担う若者です。平成25年度は、復興・再生に向けて、福島県内各地の高校生や若者が地域の復興・再生に向けた復興アイデアを話し合い、それを実施する取組を行いました。平成25年度は、南相馬市の仮設校舎で学ぶ小高商業高校・小高工業高校（イベントには原町高校も参加）のグループ、いわき明星大学のサテライト校で学ぶ双葉高校・富岡高校・双葉翔陽高校のグループ、双葉郡川内村に関わる事業所・団体の若手社員のグループが参加し、福島大学、いわき明星大学、桜の聖母短期大学の協力を得て、ワークショップに取り組みました。

南相馬市（小高商業高校・小高工業高校）

小高商業高校・小高工業高校のグループが考えたアイデアは、原町駅でJR原町駅に止まったままのスーパーたち車両に市民の描いた絵をラッピングして走らせ、復興の気運を盛り上げること。高校生が願ったスーパーは安全上かからないかもしれませんが、南相馬市内の幼稚園児が描いた花の絵をラッピングしたJR常磐線列車が、原町駅～相馬駅間を走りまわりました。2013年12月21日に、記念列車の運行・出発式や記念列車内での交流会、駅前広場における物産展などのイベントが、JR東日本の協力のもと、高校生の運営で行われました。出発式セレモニーは、小高商業・小高工業・原町の3つの高校の吹奏楽部によるファンファーレで始まり、ラッピングデザイン画の表紙式やテープカットなどが行われました。また、駅前広場では津波被害を受けた花農家の花田ボット、小高工業高校制作の旋盤コマのプレゼントや、小高商業高校がプロデュースした「小高だいにんがりんとう」の販売などが行われ、大いに賑わいました。



ワークショップの様子

出発式の様子

車内交流イベントの様子

イベント準備風景

高校生スタッフほかの皆さん

いわき市（双葉高校・富岡高校・双葉翔陽高校）

双葉郡の高校生グループが考えた企画は、福島県の現状を国内外や同世代の若者に知ってもらうためのWeb地図「双葉郡高校生による、観光・復興マップ」の制作。観光客を増やして福島を元気にするための観光情報に加え、ふるさとの商店・飲食店などの事業所が避難先で事業を再開した情報や、原立半島地域に育った自分たち高校生が抱えている悩みなども盛り込まれました。



ワークショップの様子

マップ制作打合せの様子

『双葉郡高校生による、観光・復興マップ』

furusato-fukushima.jp/ssl-sixcore.jp/futaba

QRコード



双葉郡 川内村（川内村に関わる若手社人）

双葉郡川内村は、2011年3月の東日本大震災の後、一時は全村民が避難しましたが、その後除染が進み福島県で一番最初に「帰村宣言」を行った村です。

川内村の若い世代がつくる「川内村若者ふるさと再生検討会」のメンバーは、6回にわたって村の復興・再生には何が必要か、そのために自分たちは何をしたらよいかを話し合いました。



検討会の様子

自分たちの住む川内村の中を歩いて見直すフィールドワークや、村の中学生のアンケート、日頃自分たちが感じていることなどから導き出した答えは、「村の今の様子を自分たちが情報発信すること」と、「子どもが外で元気いっぱい遊べる公園の再整備と若者の居場所づくりについて、村へ提案すること」でした。

「子どもの遊び場・若者の居場所づくり」については、2014年3月20日にメンバー代表から川内村の遠藤村長へ企画提案書が提出されました。



村長への企画提案書提出

情報発信については、メンバーが「川内村から村の今を伝えるブログサイト『モリタロウのおしゃべり広場』を立ち上げ、村の様子を村内外に伝えていくことにしました。

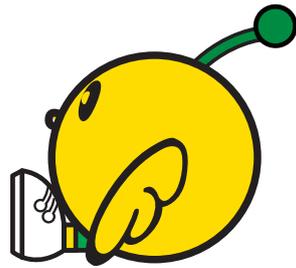
『モリタロウのおしゃべり広場』→川内村から川内の今を伝えるブログ

<http://www.furusato.fukushima.jp/kawauchi/>

QRコード

※ これらの取組は、福島県「若者ふるさと再生支援事業」により行われています。

CHALLENGE



福島県 生活環境部 青少年・男女共生課